

第 24 回日本時間生物学会学術大会開催報告

沼田 英治[✉]

京都大学 大学院理学研究科

第 24 回日本時間生物学会学術大会を 2017 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）の 2 日間、京都大学百周年時計台記念館および理学研究科において開催いたしました。今回の大会は、京都大学野生動物研究センターとの共催により、「多様性と共鳴」を大会テーマとしました。

特別講演では、京都大学総長の山極壽一さん、グラスゴー大学のバーバラ・ヘルムさん、京都大学野生動物研究センターの幸島司郎さんにお話しいただきました。これまでの大会での講演は、ヒト以外はほとんど実験条件下に置かれた生物を対象としていましたが、今回の特別講演は野生動物の時間について考えるよい機会になったのではないかと思います。

ポスター講演に先立つ「多様性と共鳴のデータブリッツ」では、30 秒という短い時間の中で、演者の方にはポスターの骨子を上手に紹介していただきました。そして、6 つのシンポジウムでは「多様性と共鳴」に着目した構成で時間生物学のさまざまな側面について議論をしていただきました。また、大会前日には関連集会として「温故知新 ピッテンドリックを読む」

というトレーニングコースが開催され、こちらも盛況でした。さらに、2017 年のノーベル生理学・医学賞が時間生物学分野に授与されたことを受けて、総会の直前に本学会理事長の深田吉孝さんがお祝いの言葉を述べられました。受賞された 3 名の方の背景に過去の偉大な時間生物学者たちが存在することを指摘されたのが印象に残っています。

台風が近づいてお天気には恵まれませんでした。特別講演 3、シンポジウム講演 32、ポスター講演 140 と多くの発表が行われ、参加者も 358 名と、多数の方々にご参加いただけたことをうれしく思っています。

最後になりましたが、本大会を共催いただいた京都大学野生動物研究センター、寄付・広告・展示でご協賛いただいた企業および団体のみなさま、さらには大会の準備と運営に携わっていただいたプログラム委員、組織委員とアルバイト学生のみなさまに深く感謝いたします。本年、10 月に長崎で開催される第 25 回大会の盛会を祈念して、大会開催報告とさせていただきます。

✉ numata@ethol.zool.kyoto-u.ac.jp